

考えられています。実際、このSARS-CoV-2は現在暑い南半球やアフリカでも広がっていますし、このウイルスに対して人類のほとんどは免疫を持っていないのです。しかしながら、暖かくなると落ち着くのではないかという意見には全く根拠がないわけでありませぬ。動物実験で気温が30℃を超えると、飛沫の中のウイルスの安定性が落ちて、感染性が低くなるという報告があり、気温や湿度が低いと人の喉の上皮の繊毛運動が低下するので、より

感染効率が良くなるので、寒いときに流行しやすくなるというデータもあります。このウイルスは発見されて数ヶ月ですから、まだまだわからないところも多いので、今後どうなるかは実際に経過をみてみないとわかりませぬ。もちろん、人類にははじめての経験ですから、わからないのが当たりまえであって、注意深く状況をみながらいろんなことを進めていく以外に方法はないのです。

(臨床研究部長 谷口 清州)

通所支援事業のひとコマ

絵本大好き!

通所支援事業では、制作・音楽あそび・ムーブメント(パラシュートやハンモック等)・スノーズレンを中心とした療育活動に加え、絵本やパネルシアターも行います。利用者さんたちは、どの活動にもさまざまな反応を示してくれますが、最近のブーム?!は「絵本」です。特にその中でも、『はらぺこあおむし』という絵本がみんな大好きで、リズムに乗って絵本を読み始めると、目をキラキラさせてジッと見えています。



その『はらぺこあおむし』の絵本、現在売っているものと、初版のものとの絵が違うらしいのですが、ご存知でしょうか。1989年2月より以前に出版されたものと、現在のものとで表紙の「あおむし」の毛の色、最終ページの蝶の羽など、違うところがいろいろとあるそうです。比べようと

も1989年2月より以前に出版されたものが見つからないので比べられませんが、もし1989年2月より以前に出版されたものをお持ちの方がおられましたら、ぜひ見せてくださ〜い。

通所支援事業の利用者のみなで、『はらぺこあおむし』を作ることにしました。どうやって『はらぺこあおむし』を表現しようか…と思い、みんなの足形を取り、大きな『はらぺこあおむし』が完成しました。写真も掲載しましたが、本物?!が4月のギャラリーに展示されます。ぜひ、通所支援事業のあおむしさんを見に来てくださいね。

通所支援事業では、『はらぺこあおむし』以外にも、『てぶくろ』『11ぴきのねこ』『くつついた』などの絵本も大好き!! 今後は、「大好きな絵本シリーズ」として、ギャラリー制作にも取り組んでいきたいと思っています。どんな仕上がりになるのか?! お楽しみに♪

(主任児童指導員 丸澤 由美子)



やまばとギャラリー情報コーナー

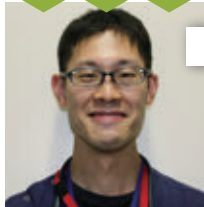
今月のやまばとギャラリーは、「つくし」です。新聞紙を丸めて穂を作り、トイレペーパーの芯に包装紙を貼って茎を作りました。新聞紙で穂を作ったので、堅くて丸めるのが大変でしたが、患者さんと職員が力を合わせてがんばりました!

お花見などの予定がなくなったという方もいるのではないのでしょうか?

やまばとギャラリーで春を感じませんか? 是非お花見にお越しください。

(児童指導員 白松 美優)

異動のごあいさつ



●小児科 小堀 大河 先生

(2020年3月31日付)

小児科の小堀です。3年間、三重病院のアレルギー科、小児科として勤務させていただきました。前は小田原という神奈川県のある病院で蒲鉾を食べながら年間50件ほどの食物負荷試験をのんびりやらせていただいていたのですが、年間1000件を超える食物負荷試験を行う三重病院で、食物アレルギー以外にも、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、薬物アレルギーなど他の色々なアレルギー疾患について、小児のみならず、成人の患者さまにも携わることが出来て、非常に貴重な経験をすることが出来たと思います。駅からのアクセスがかなり悪いのがデメリットだとは思いますが、活気ある医療スタッフにも恵まれており、私の稚拙な意見も真摯に受け止め答えてくれるような風通しがよくとても働きやすい雰囲気職場でした。三重で学んだ「三重」っ子として、見栄ではなく、きちんと誇れるようにこれからも精進していきたいと思っております。3年間ありがとうございました。

令和2年度医療安全目標です
確認は指さしながら
声に出して行おう。
三重病院 医療安全管理室

医療安全便り
令和2年 VOL.11

声に出して
読んで
聞こえて
ハツとする